



10月31日まで延岡に滞在し地域実習を行う大正大学
地域創生学部生ら（きょう午前、延岡市役所）

大正大学（東京都豊島区西巣鴨）地域創生学部の学生が今年も延岡市で長期滞在型のフィールド学習「地域実習」を始めた。延岡の人や風土に触れながら魅力や資源を発見し、具体的な活性化策を考える。来延2日目のきょうは同市の読谷山洋司市長を訪ね、豪気込みを語った。

同学部は創設された平成28年度から毎年、同市でこの実習を実施。今回は1期生の3年生6人と3期生の1年生8人の計

14人が、10月31日までの42日間滞在し活動する。3年生6人のうち5人は1年次に延岡で実習を行ったメンバー。

読谷山市長は「若い視点からどのような政策・考え方があるか、必要な分析を行い提言していた

学生は自己紹介で目標も語った。1年リーダーの吉本大祐君は「カリキュラム内ではなく自分たちから地域に出て行き、胸を張って『こうい

うことやった』と言えることをやった」と言える実習にしたい。3年リーダーで1年次も来延した片島秀斗君は「延岡を思い続けて3年目。延岡が繁栄できる『実』を残したい」と抱負を述べた。

同大OBで同窓会南九州支部の野中玄雄支部長（今山大師任職）は「学生は毎年、心温まるサポートをいただき有意義な実習ができる。今年

予定。

同学部は「カリキュラムに徹し、これらの地域を担う人材育成が狙い。カリキュラムの特色の一つが、1・3年次に行う「地域実習」で、同大のシンクタンク「地域構想

活動のテーマは「地域のニーズで新産業を創造する」。1年生は地域を知ることから始め、金貢で答える」を出す。3年生は個人研究となり、1年次の経験も踏まえてより精鍛された意見を提案する。報告会は10月26日の予定。

研究所」が主催する自治体コンソーシアムに加盟する地域がその舞台となる。今回は同市を含む全国13地域に分かれて実習を展開している。

大正大学

地域創生学部

今年も延岡実習

1年生8人と2度目の3年生6人